

# 希望コースを調査

## —近修委で—

# 中国地方加え

## 50年度 信州地区は飽和状態

【大阪】近畿修学旅行委員会(久保田八郎委員長)では昭和五十年年度の修学旅行希望目的地の調査を行なった。近畿地区は、きんぎょの自然を求めて信州方面へ出掛ける学校が増えているが、受け入れ態勢に限りがあり、これ以上になると、どうも収容が難しくなるため、同委員会では五十年年度に山陽新幹線の博多まで延長されるのを機に、新たに中国方面コースを設け、関東、信州と合わせて三本建てとし、そのなかから希望コースを選んでもらおうとしている。

近畿地区から信州方面へ行く中、コースを加えることに踏み切った。各学校は、四十八年度が約七万八千名、四十九年度は約九万九千名の増加傾向にあるが、バスや旅館の手当が不足に陥り、これ以上になると、実施不可能のおそれも出てきた。

同委員会ではその打開策の一つとして、五十年年度に新幹線が博多まで延長されるのを機に、新たに信州、山口を加え、中国方面コースを加えることに踏み切った。

各中学校に対して関東、信州、中国の希望するコースを決めて九月十四日まで回答するよう求め、これによって国鉄に対して列車の運転を交渉する。アンケートの要項は次の通り。

▽関東コース  
二泊三日。往復新幹線の同列車を利用し、列車は従来通りA、B、Cの四種類(各列車のダイヤはたいだい四十九年度線AまたはA1列車を利用)に同じ。

▽信州コース  
(A)三泊四日。往路大阪発八・一〇〇。長野着二七・一〇〇。復路長野発二・四三〇。大阪着六・五二〇。  
(B)三泊四日。往路大阪発九・三〇〇。松本着二六・二〇〇。復路松本発二二・一五〇。大阪着五・五九〇。  
(C)二泊三日。往復とも新幹線AまたはA1列車を利用(いまは京都市以外)。

▽中国コース  
(一)第一日。新大阪→下関→萩→秋芳洞→湯田。第二日。湯田→宮島。第三日。宮島→宮島口→広島→新大阪。  
(二)第一日。新大阪→広島→宮島口→宮島。第二日。宮島→宮島口→広島→秋芳洞→湯田。第三日。湯田→萩→秋芳洞→湯田→新大阪。

回答の送先は大阪府(大阪市内)・京都府(京都市以外)・兵庫県(神戸市以外)・奈良県(奈良市以外)。

# 静岡のフィールドワーク

(1)

財団法人・全国修学旅行研究協会から、フィールド・ワーク・静岡高等学校教職員組合の協力を得て、今年度の修学旅行の調査が完了した。その結果、静岡方面の調査が完了し、今年度の修学旅行の調査が完了した。その結果、静岡方面の調査が完了し、今年度の修学旅行の調査が完了した。

# 新教材を授業に活用

岩橋 徹

【フィールド・ワーク】この行事は、当初は静岡県出版文化会・静岡県教職員互助会・静岡県教育会・静岡教育出版社の主催、および静岡県教育委員会・静岡県校長会・静岡県高

の教師から募られているが、毎年募集定員を上回る熱心な応募があり、主催者側の苦心で、今年度は募集定員を超過して、昭和三十八年募集以来現在まで、昭和四十五年の一回を除き、この行事は十年間もつづいて行なわれてきた。

当初からは文学・歴史・地学の三コース(定員各五十名)で開始されたが、昨年から海洋コースを加え、抽せんを経て



岩橋 徹氏

までの片道新幹線、片道集約列車の方式は五十年年度は実施しない)なお、A、Bコースとも往復集約列車で、Bコースは長野まで延長できるが、国鉄へ交渉中。

▽中国コース  
二泊三日。往復新幹線を利用。ダイヤは未定だが、新大阪が始発駅。往路新大阪発一〇・三〇〇。復路新大阪発一六・〇〇〇。を予定し、広島以降の乗降となる。広島・博多間の停車駅は新岩国・徳山・小郡・下関・小倉である。

# 郷土の玩具

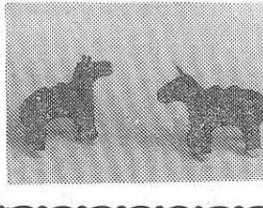
## 木彫りから練りものへ

吉良の赤馬

★愛知県西尾市では古くから土の人形や練りものが盛んに作られていたが、今ではわずかに練りものだけ、しかも、赤馬、だけが残っていない。これも尾張三河の有志者により復活した。その作品は昔のものと同じなのがうれしい。

★「がんり」馬ものには赤、白、吉良の駿馬と三種類のあり、赤と白の馬は手でひねった簡単なもの。一時は赤い馬だけ作られたが、吉良の赤馬といわれたけれども、白馬のほうがよいのだともいって。

★元禄ころ、吉良の領主・義央公は産業振興に努力を重ねた。毎年の水害を防ぐために、黄金堤を築いたが視察にあたっては愛馬の赤馬にのらされた。偉風堂々、しかもやさしい心情に人々は涙を流したと云う。



# 科学技術館で入館料を改訂

来年四月から実施

科学技術館(財団法人科学技術振興財団)は、来年、開館十周年を迎えるが、現在までの入館料は約六百五十人に達し、わが国の科学技術知識の普及に大きな貢献をしている。同館では展示品の製作・更新が多額を要し、さらに内容を充実させるため現行の修学旅行団体などの入館料を次の通り改訂する。四月一日から実施する。

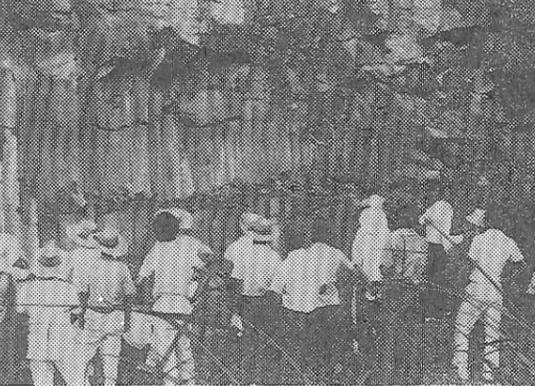
▽団体入館料(二十名以上) 学・高校・各種学校 百五十円。中学生 九十円。小学生 八十円。

六月下旬参加者決定通知がテキストと同時送られる。実施期日は通常七月三十一日と八月一日の二日。

次に各コースについて、この一、二年の例をあげ、あらかしを述べよう。ただし筆者が担当した地学コースについては、次回から二回にわたって具体的に旅行の道筋に従って、同コース内

の歌碑を訪ね、西条八十・高田浪吉・与謝野夫妻の足跡をたどることができた。南伊豆では久保天来・島崎藤村・窪田龍雄などの文学、下田ではお茶をめぐる多くの作品にふれることができた。中伊豆では井上靖の生家川端康成の湯本館、北原白秋の落合楼のほか、岡本綺堂・高浜虚子・夏目漱石の碑を訪ねるところが多かった。

今年の夏の歴史コースのテーマは「伊豆の歴史と文化」。開成した。主な見学場所は瑞穂寺・龍堤・岩本山山相寺・大照寺・浅間神社・大石寺・深沢城。期日本外交の中心であった。日竹下古戦跡・箱根陣地・関所跡・山中城跡・三島大社。プチャーチンの来航とその乗船



ことしの地学コースの2日目、富士火山旧期溶岩(芝川溶岩)と柱状節理の見学風景(富士川町南松野で)

の沈没によって作られた洋式造船技術をつたえる戸郷土博物館、松崎の入江八のし、くい芸術をつたえる記念館など日本の開国と伊豆の果した役割を理解し、伊豆でくわりの歩みを知るとともに歴史を探究した。

海洋コースは、昨年は「駿河湾の総合海洋調査」で、本年は「駿河湾から三宅島までの海洋調査」として、東海大学の実習船「望星丸」(一〇三ト)が利用された。航海の途中、海洋物理(透明度・水温・海流測定)、海洋化学(採水・塩分・酸素濃度測定)、海洋生物(プランクトンネットによる生物相分布・標本採取)、海洋地質(海底地形・地質・地質構造の調査)のほか、海上気象・波浪観測・航海・航法・海上保安など盛り沢山の観測・実験・実習が行なわれた。これを通して駿河湾の生きたち・構造・黒潮と生物との関係、海洋汚染などの問題が考えられた。(つづく) 静岡大学教授

いらっしゃいませ  
国定公園 近江路の旅へ

国際観光旅館 **びわ湖リゾートホテル**  
大津市におの浜3丁目1-4 電話 大津(0775)24-2321

収容 800名様  
食堂 550名様  
浴場 150名様  
設備 全館冷暖房  
防 諸設備完備

若い時の思い出に  
30時間の楽しい旅

苦小牧  
東京  
毎日就航

日本沿海フェリー

本社/東京都港区新橋1-10-7(大和銀行新橋ビル) ☎(03)573-1911  
札幌支店/札幌市中央区南大通り西10-4(高橋ビル) ☎(011)261-6321

